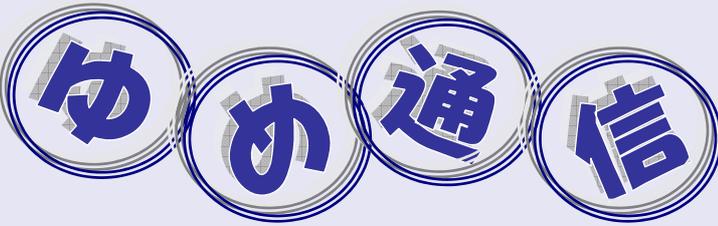


第10号
2008.9.16 Tue

地域づくり考房『ゆめ』



地域づくり考房『ゆめ』は、大学で学んだ知識や技術を学生が地域づくりの中で実践的に生かしていくことを目指しています。

“ゆめ”の由来…結芽ゆめ「ニーズの芽を結ぶ場所」+ 夢ゆめ + 遊眼ゆめ「遊び心の視点を持つ眼」



松本大学



高く評価された「ゆめ」の活動と今後の期待

松本大学総合経営学部 学部長 木村晴壽

改めて強調するまでもなく松本大学は、専門知識と行動力をバランスよく兼ね備えた人材を地域社会へ送り出すことを目標としています。したがって本学の学生は、4年間をかけて(短大部の場合は2年間で)そのような人間へと成長するための教育を受けることになりますが、松本大学の大きな特徴は、地域社会に定着し、そこで意味ある活動を実践するための人間力・行動力を重視するところにあります。

カリキュラムに編成された各授業だけではそのような力を十分に育成することはできない、というのが本学の考え方です。通常の授業とともに学生の地域での活動を奨励し、それを強力にサポートすることによってはじめて、実践力は身につくのだと考えています。

平成20年度の文部科学省「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」(通称「学生支援GP」)に向け本学は、「若者の地元定着につなげる地域活動の支援～地域まるごとキャンパス「地域づくり考房『ゆめ』」の実践～」のテーマで申請し、採択されました。「ゆめ」を拠点としたこれまでの活動が高く評価された結果であるとともに、今後のチャレンジには注目が集まっています。レベルアップした地域実践に大きな期待が寄せられてもいます。

Topics

新入生 活動紹介

平成20年度地域づくり学生 チャレンジ奨励制度

学生の地域連携活動

- ・みすず屋四方山断
- ・にじますカップ
- ・トム、いかだで河をくだる
- ・波田町日本語教室

お知らせ

- ・ナーマル・プロジェクト古着募集
- ・バリアフリー支援準備室スタッフ募集

ミャンマーサイクロン、
岩手・宮城内陸地震募金活動
つばやき

新

入

生

活

動

紹

介

今年も大勢の新生を迎え、新たな年度がスタートしました。考房『ゆめ』でも多くの1年生が活動を始めました。興味がある事、やりたい事はそれぞれ違いますが、先輩学生や地域の方と楽しく交流しながら活動しています。そんな1年生7名に、活動のきっかけや感想などを聞いてみました。

参加者インタビュー

活動のきっかけは？
どんな活動をしていますか？
活動した感想と今後の豊富

中学、高校と私はさまざまなボランティア活動をしてきました。そしてもちろん、大学でもボランティア活動を積極的に行っていきたいと思っていたので「ゆめカフェ」に参加しました。そこで紹介されたさまざまな活動の中でも、私が特に興味を持ったのは「松風連」でした。太鼓は全くの未経験でしたが、この活動では大学内だけでなく、社会人や地域の子もたちと交流できると聞いたので、思い切って新しいことにチャレンジしてみようと思ひ立ち、実際に活動を見学してみることにしました。

松風連では週に一度、社会人の方や地域の子もたちと一緒に練習をしていました。週末には地域のイベント（祭りなど）からの依頼を受け、実際にステージで演奏を披露しているようです。

松風連の活動を見学したことで、もっとさまざまな活動に足を踏み入れてみたいと思うようになりました。考房『ゆめ』で紹介されているボランティア活動には、私が以前から参加していた「ひまわり号」という活動があったり、また先生方からボランティアの情報提供をしていただけたりするので、活動の場を更に広げていくことができそうです。地域の方々との交流やボランティア活動を通し、大学生活を充実させていきたいと考えています。そのためにも、自ら活動していこうという姿勢を大切にしていきたいです。



総合経営学部
観光ホスピタリティ
学科1年
上山 聡子さん



総合経営学部
総合経営学科1年
上條 雄貴さん

高校が農業高校で地域や人と積極的に関わっていたので、松本大学に入った後もそういう活動をしたと思っていました。オリエンテーションで考房『ゆめ』の存在を知り、面白そうだなというのと地域と関れればと思い参加しました。

今は、PEACE OF MINDという団体で活動しています。信大と共同で戦争体験の聞き取りなどの平和活動をやっています。また、HIVについての調査・発表などをしました。Mウイングでのイベントの司会やお手伝いもしています。

戦争体験の聞き取りは、聞き取った後の編集などが大変ですが、お年寄りから生の戦争の話が聞けてとても為になります。信大の人とも仲良くなれてよかったです。Mウイングの活動のほうも、ミュージシャンの人や、職員の人と沢山喋ったり、交流できているので参加しがいがあります。これからは、もっと様々なシーンで役に立って、重要と思われる存在になりたいです！

入学後のオリエンテーションで考房『ゆめ』の説明を聞き、その中で「山形小学校自律支援学級のボランティア」の活動について興味を持ちました。私は子供とふれあったりすることが好きで、ボランティアにも興味がありました。具体的にどのような活動をしているのか先生や先輩から詳しい話を聞き、「やってみたい！」と思いました。しかし、活動時間が授業時間とかぶってしまい、まだ入学したてで学校生活にも慣れてなかったため違うボランティアを探すことにしました。その時に先生が他の子供とふれあう活動を探してくださり、その中に「ひよこの会」という親子サークルのボランティアがあり、活動時間も丁度よく、興味を持ったので参加することを決めました。

「ひよこの会」は保育園に入る前の0～2才位の子供とお母さんが、子供同士・お母さん同士の交流を深める親子サークルで、バザーや七夕会などの行事をしています。私は一緒に行事に参加させてもらい、準備のお手伝いや子供やお母さんとの交流を楽しんでいます。

初めは「大丈夫かなぁ？」と不安だったけど、子供達が進んでくついで来てくれるのを見てくれるようになり、お母さん方も優しく、頼りにしてくれるので今では参加するのが楽しみです。これからも積極的にいろんなボランティアに参加して、人とのふれあいができたらいいなと思います。



松商短期大学部
商学科1年
北林 かおりさん



総合経営学部
観光ホスピタリティ
学科1年
上木 純子さん

オリエンテーションで松風連の演奏を聴き、「大学にはこんな素敵な活動があるのか」と、とても感動したことがきっかけでした。日本人なのだから、何か日本の文化に関わりたと思っていたので、和太鼓がとても魅力的に思えました。

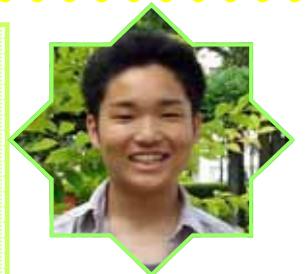
松風連では大学生だけではなく、地域の小学生や社会人の方も一緒に活動しています。週一回練習し、地域の行事や施設からの依頼により、演奏会を行っています。そこでは、地域の方と交流する機会もたくさんあります。

私は太鼓初心者でリズムを覚えるのがとても大変ですが、先輩が丁寧に教えてくれたり、友達と一緒に練習したりしながら楽しく覚えています。いつの間にかリズムを口ずさんだりもしています。それでも、演奏会では失敗も多く、先輩たちのようにうまくはいきません。今後はもっと練習を積み重ねていき、先輩たちのように堂々と演奏ができるように頑張りたいです。そして少しでも多くの人に、和太鼓の演奏を聴いてもらい、その素晴らしさを伝えられたらと思います。それから、この活動を通して地域の方との交流を深め、自分の視野を広げていきたいです。

僕の大学4年間の目標は、様々な活動に参加、経験して少しでも自分を高めることと考えていました。そんな時オリエンテーションで、戦争の聞き取り調査をする「PEACE OF MIND」というプロジェクトを知り、興味を持ちました。これまで戦争について詳しく知る機会がほとんどなかったので、ぜひ参加しようと考えました。

PEACE OF MINDでは松本市内の戦争体験者への聞き取り調査を行っています。この他、松本手まり時計祭りに参加し、エイズについて調べたことを発表しました。より多くの方々、特に同世代の方にエイズ・HIVについて知ってもらうためメンバーの一人一人が調べたことをパネルに書いてまとめました。

自分で調べ、その情報を発信することで理解が深まっていきました。今後は、少しでも戦争のことを知り、戦争と平和について考えていきたいです。そして、自分が知ったことを多くの人に知ってもらい一緒に考えていけたらと思います。



総合経営学部
観光ホスピタリティ
学科1年
武田 翔さん



松商短期大学部
経営情報学科1年
大池 千史さん

オリエンテーションで説明を受けて興味を持ったのがきっかけです。最初は軽い気持ちでペロタクシーの事を聞きにいきましたが、先輩から詳しく話を聞いているうちに自分でも乗ってみたいと思いました。人との関わりが強いペロタクシーでコミュニケーション能力を高めることが出来るので、入ってみようと思いました。

ペロタクシーは環境に優しいエコカーで、毎週土曜日と日曜日に松本城を中心に運行していて、城内を回ったり決められた観光コースを走ったりしています。他にも、駅や花時計公園前までといった特定の場所までの運行も行っています。

ペロタクシーはとても体力を使う活動で運転していると凄く疲れます。けれど、乗っていただいたお客様が楽しんでくれていると思うと「頑張ろう」と思うことが出来ました。今後は、お客様が乗ってよかった、また乗ってみようと思ってくれるような接客をしながらの運転が出来るように頑張っていきたいと思っています。

考房『ゆめ』を知ったのは、松本大学に入学してからすぐにあったオリエンテーションでした。元々、何かボランティアをしたいと思っていたのですが、まだ自分から動けなかったため、いい機会だと思い考房『ゆめ』の活動に参加しました。

最初は先輩が行っていた山形小学校へのボランティアを希望していたのですが、講義の空き時間と時間がうまく合わなかったため、急遽先生に大学から近い芝沢小学校に連絡を取っていただいて、そこから活動が始まりました。主な活動は、なかよし学級、あおぞら学級の3人と一緒に授業をしたり、出来ないことを手伝ったり、時にはクラスの子とも達と遊んだりすることです。

今回、芝沢小学校に行かせていただいて、自分が想像していた以上に子ども達とコミュニケーションを取ることに難しさを感じ、最初は迷うことが多かったのですが、回を重ねるごとに自分なりにわかることも増えていきました。最初は緊張していた3人も自然と仲良くなり、子ども達からも学ぶことがたくさんあり、勉強になりました。普通に大学生生活を過ごしているだけでは得られない、とても貴重な体験をさせていただくことが出来たので、今後もこの活動を活かしていきたいと思っています。



人間健康学部
健康栄養学科1年
春日 彩さん



地域づくり学生チャレンジ奨励制度



松本大学地域づくり考房『ゆめ』は、本学学生の社会参加への第一歩となり、社会をより良くしていこうとするリーダーシップの芽生えとなる活動を支援しようと、平成17年度から奨励制度事業を行っています。楽しみながら自らも成長し、地域も活性化し、社会貢献につながる、学生による地域づくりの活動を募集し、今年度は6団体の応募がありました。7月10日に選考審査会を実施し、下記の事業に奨励金が支給されました。



松本大学 ナーマル・プロジェクト

スリランカ国のナーマル・オヤというエリアの地域開発で相互の人間的な発展・成長を目指して活動していく。



古い電車で新しい語らいの会

松本電鉄新村駅や電車を活かして、地域の方と学生と一緒に地域づくりを行う。多世代交流、新村地区の縁側となる場所づくり、松本電鉄沿線上の地域の活性化などを図る。



地域交流和太鼓プロジェクト松風連

老若男女、経験者、未経験者を問わず、大学内外誰でも参加できる地域交流型事業。

日本の伝統文化である和太鼓を通じて、松本市を中心に地域の様々な活動に参画し、幅広く活動していくことで地域を元気にしていく。



松本大学キッズスポーツスクール

子どもの発育・発達に合わせた様々なスポーツを通して子どもに体を動かす楽しさを知ってもらう。



PEACE OF MIND

戦争体験談の聞き取り調査やテーマ別に研究したものを発信し、学生や地域の人達に平和の問題について理解を深めてもらい、平和の大切さや、日常的な問題について多くの人に知ってもらう。



松本大学 子ども見守り隊

近隣小学校児童の登下校を見守り、交通事故や不審者などから地域住民を守る。

★ 地域活動への参加 ★

みすず屋 四方山嘸

松本大学近くにある雑貨屋「みすず屋」さんで、7月14日に「みすず屋四方山嘸」が行われました。学生が企画し、当日は本学地域総合研究センター研究員の玉井袈裟男先生を囲んで地域の方と楽しく交流しました。



私のみすず屋さんに行ったきっかけは、授業の地域交流でした。不安もありましたが、行き始めると地域の方は快く迎え入れてくれました。途中玉井先生の話を知りたいという地域の方からの声を聞き、先生と連絡を取り『玉井先生の四方山嘸』という会が実現しました。当日までには急な予定変更もあり大変な事も多くありましたが、手作りポスターを作り張り出したり、みなさんが声を掛け合ってくれたおかげでたくさんの方に集まってくれました。玉井先生や地域の皆さんからも、ためになる楽しいお話をお聞きすることができ、私自身とても楽しめました。地域の方とこんなふうにふれあう機会は今まであまりなかったので、とても良い経験になりました。今後も活動を続け地域の方とふれあう機会をまた作りたいです。

(松商短期大学部経営情報学科1年 山本 香奈さん)

地域の方より

老人の数が多くなり、どこへ行っても「いつ死んでも良いわい。」等、とどまる所はそんな話で終わっていた昨今、みすず屋さんで玉井先生が来てお話があるとの事。良い機会と思い、参加させていただきました。少し早い時間にみすずさんに着き、店に並べてある物品を眺めていた所に先生がお見えになり、早速に言葉をかけていただきました。昔のメンコがあり、「その遊び方を知っているかい?」と聞かれ、もぞもぞとしていたら、先生自ら「こうやって遊ぶじ。」と実演して下さいました。私と同じ目線で接して下さいましたことに、びっくりしました。すぐに先生の胸の内に入ることができ、午後の暑い時間に良いお話をたくさん聞かせていただき、素晴らしい時間を過ごす事ができました。また機会がありましたら、参加させていただきたいと思っております。

(松本市新村 70代女性)

にじますカップ カヌースラローム 大会



表彰台の準備中

6月14日、安曇野市明科竜門淵公園内の河川で「第14回にじますカップカヌースラローム大会」が行われました。松本大学と松商短期大学の学生8名が大会の運営に携わり、受付や審判員として活躍しました。

私は、にじますカップ・カヌースラローム大会に審判員として参加しました。きっかけは開催地が自分の住んでいる地域だったからです。と言っても実際そんな大会があるなんてまったく知らなかったし、カヌーの知識は無いに等しいものでした。ただ家から近いからという安易な理由で選んだ私でしたが、主催者の大沢さんと打ち合わせを重ねていく度に気持ちは変わっていきました。それは、このにじますカップの規模の大きさと、参加者の情熱が伝わってきたからです。参加者の数は160人、しかも、ほとんどの人が県外からで何時間もかけて数分の競技のためにかけつける。私は少し理解に苦しみましたが、参加者の方は、ただカヌーが好きだから来ているのではなく、開催地の安曇野が好きだから来てくれていることに気がきました。そんな人達に適切な態度で接して安曇野を嫌いになられては困ると思い、一生懸命に準備から受付、審判、片付けとやってきました。それが伝わってくれたのか、お礼のメールをたくさんの方にいただきました。ものすごく嬉しくてウルウルしちゃいました。実際、炎天下の中で何時間も気を張って審判をやって、片付けもけっこう大変で疲れました。でも、たくさんの人と話したり、わいわい準備した楽しい記憶しかありません。もし予定が合うなら来年も参加したいと思っています。そして、安曇野を盛り上げていきたいと思っています。参加してよかったです。

(総合経営学部総合経営学科3年 岩月 直也さん)

参加者より

この度カヌー・レースを手伝ってくださった学生のみなさん、ありがとうございます!!

昔のにじますカップは、財政的にも世間の暮らしにも少しゆとりがあったせいか、ボランティアも沢山いた記憶があります。それが町の統合財政削減や厳しい世の中になってきて、にじますカップの開催すら危ぶまれる声も聞こえていました。しかし全国のカヌー・ファンは、にじますカップだけは別腹と言う意識が強く、開催を強く希望しました。レースとなると選手はびりびりしていて、本心、人数不足のジャッジ交代などはとても出来ない状態となります。どうするか・・・?そこへ松本大学の学生さん達が助け舟をだしてくれたのです!ジャッジはとても地味でその割厳しくて、素人さんたちにはとても過酷な役目なのですが、学生さん達の若さやヤル気、エネルギーは見事に大会成功に直結いたしました。おかげで私達は選手としてだけのプレッシャーで大会を楽しむことができました。本当にありがとうございました!!心より感謝いたします。また、そんな学生達を輩出している松本大学を尊敬いたします。

(大阪府 福田 清次さん)

地域の方より

私が毎年運営している、にじますカップカヌースラローム大会は、カヌー協会等公式な団体が運営にたずさわってはいない草大会ながらも、毎年全国から選手が集まる国内最大級の大会に成長しました。しかし、この大会の目的は、大会開催地の旧明科町の特産品の紹介等地域振興でしたが、町村合併による安曇野市誕生により、従来の旧明科町の特色だけでは今後生き残ることができず、安曇野市として新しい価値観や資源の掘り起しが必要と感じたからです。

そんな中、若く新しい発想をお持ちの松本大学の学生さんなら、今まで大会に係わってきた私たちも全く気がつかない、新しい安曇野市の魅力を見い出していただけるのではないかと思ったからです。残念ながら、お願いするのが大会直前になってしまったことから、大会の企画そのものに参画していただく時間があまり取れませんでした。大会前日や当日には積極的にご協力下さり大変助かりました。参加選手からもカヌーのことを良くわからないながらも長時間一生懸命活動する姿に感銘と感動をする方の賛辞が後を絶えませんでした。

今年限りでなく、是非来年以降も御協力いただけたなら幸いです。

(松本市島内 大沢 勇治さん)



大沢さん
を囲んで

トムソーヤの夏 第2弾 トム、いかだで河 をくだる



ランチの
ブタの丸焼き



地域の方より

私達“みとろぐる～ぷ”が、初めて松本大学の地域づくり考房『ゆめ』にお世話になったのは、一昨年夏の、松本市制100周年の記念事業に参加した時でした。もともと、“みとろぐる～ぷ”は構成メンバーが4人しかいないのに、参加者が100人以上のイベントを企画実行しているのですから、当然のことながらいつもスタッフ不足で、企画段階は何とかなっても、当日はいろんな方をお願いしながら実施してきました。

そんな時、知り合いの方から、地域づくり考房『ゆめ』を紹介していただきました。ちょうど、その時の企画が「色・彩・水遊び」というタイトルで場所があがたの森公園ということもあり、チラシ配布や準備作業をお手伝いしていただき、大変助かりました。

その時の御縁で、今年の「風と遊ぼう“こいのぼり広場”」に、そして今年も「トムソーヤの夏 第2弾”トムいかだで河をくだる”」に、ボランティアとして参加していただきました。

今回は今までと違い、事前参加申し込み制とし参加者の顔の見えるイベントを企画しました。お陰様で、第1弾「トム 仲間と隠れ家をつくる」共々、キャンセル待ちが出る程たくさんの応募をいただき、総勢150人位で、短い信州の夏の1日を戸外で楽しむことが出来ました。

これからも、学生さんの柔らかな発想と若いエネルギーに助けをいただきながら、私達“みとろぐる～ぷ”は、子ども達のキラキラ輝く瞳に会えるのを楽しみに、ワクワクするようなイベントを企画していきたいと思っています。今後ともよろしく願いいたします。

(みとろぐる～ぷ 三戸呂 三都子さん)

7月26日に大町市わっぱらんどで、「トムソーヤの夏第2弾」としてウレタンボードとペットボトルを使ってのいかだ作り遊びが行われました。

私は、みとろぐる～ぷさん主催の「トムソーヤの夏」第2弾 トム、いかだで河を下る に参加しました。参加した理由は子どもたちと遊ぶことが好きなことと、このイベントに携わる中で子どもたちの思い出に残るものをつくるお手伝いがしたいと思ったからです。イベントは小学生を中心としたグループで自分たちの好きなようにペットボトルを使った筏を作って自然の中で遊ぶ、といったものです。

そのために早朝から準備に勤めました。みとろぐる～ぷさんの指示のもと清泉女学院のみなさんや大町北高校のみなさんと協力しながらイベントを盛り上げました。このイベントでとても印象に残っているのはランチタイムのブタの丸焼きと、なにより楽しく遊んでいた子どもたちの笑顔です。暑い中での作業でしたが、子どもたちのはしゃぎまわる姿を見ていると、とても元気になりました。

私は今回の活動の中で、イベントの中での裏方の仕事の大変さとやりがいを感じました。多くのお客さんが楽しく遊んでいる中、汗を流して地道な作業をするのは大変なことですが、参加者が楽しく遊んでいるのを見ると、汗を流す価値を実感しました。このイベントでは、みとろぐる～ぷさんをはじめとする多くの人との良い出会いがありました。新しい出会いがあることもイベント参加の楽しさなのかもしれません。

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科3年 石山 慎也さん)

ナーマル・プロジェクト古着募集のお知らせ

ナーマル・プロジェクトでは、スリランカ国ナーマル・オヤ地域の人々の仕事をするため、古着を集めて現地の市場で商売をしてもうおうと考えています。どのように売るか、価格はどうするか、など具体的な条件は全て現地の人に任せます。気候や宗教上、いろいろな制約がありますがご協力いただける方は、考房『ゆめ』までお問い合わせ下さい。

募集する古着の条件

夏服であること
半袖が望ましいです。ジーンズ、バスタオルなども状態によってはOKです。
派手な装飾がないもの、宗教的に問題ないもの。
英字プリントのものなどは場合によって不可です。
サイズがわかるもの、タグがついているもの。
洗濯済みで状態の良い物。
商品として売りに出すため、ご理解をお願いいたします。

波田町 日本語教室



バンブーダンス



外国籍の子ども達の学習サポートや、ふれあいランチパーティ、波田町さいさい祭の「国際交流カフェ」などの活動を通じて、多文化共生を学んでいます。

日本には様々な外国の方々が出て、そういった人達の中には日本語がわからなくて困っている人もたくさんいます。その人達のために何か少しでも役に立ちたい、交流してみたいと考え波田町日本語教室の活動に参加させてもらっています。

私たちは、毎週土曜日の日本語教室とふれあいランチパーティーと波田町さいさい祭の国際交流カフェに参加して来ました。日本語教室では、普段使っている日本語を教えるということが難しくてどうやっていいか迷いながらやっています。でも、教え方を他の先生たちが親切に教えてくれます。また、生徒さんが「教えてくれてありがとう」と言ってくれたりしたので頑張って自分達もいろいろと学びながら続けてきました。ランチパーティーでは、日本人外国人関係なく協力して料理を作ったり、バンブーダンスをしたり、クイズをしたりしました。料理もとてもおいしく、パーティーも楽しくて良い経験をさせてもらいました。また、国際交流カフェでは、朝から皆で準備し、飲み物を売ったり、ブラジルの方が作ったバーベキューを食べたり、花火を見たりと充実した1日でした。

貴重な経験をたくさんできた有意義な活動ばかりでした。この経験を生かして、これからもいろいろな活動に参加したいと思いました。日本語教室ではもっと教え方がうまくなるように努力していきたいと思います。

(松商短期大学部経営情報学科1年 大石 春菜さん、熊井 奈都記さん)

地域の方より

波田町は松本大学とは本当にお隣同士、日本語教室立ち上げのころ十年以上も前より先生方には種々ご指導いただいています。もとより国際交流活動も「地域づくり」の一つですが、松本大学が地域と共に地域社会を担う人材づくりを目指して、本当に間違えな「学び」の姿をくり広げられていますこと、いつも本当に素晴らしいと思っています。たびたび留学生や学生さんたちが活動に参加してくださいましたが、今年度は3人の方が毎週日本語教室に出席して、主にブラジル、フィリピンの子どもの学習サポートをしてくださり、子どもたちとても喜んでいました。

7月26日の波田町あげての夏祭りには、国際交流クラブ、日本語教室主催の「国際交流カフェ」のコーナーをスタッフとして、準備から片付けまで本当によく活動してくださいました。外国からの人々とも一緒に汗を流し、バーベキューを食べ、踊り、大きな花火大会を楽しみました。今度の打ち上げパーティーで感想を聞くのが楽しみです。

日本語教室ではそれぞれ状況の違う外国の方に戸惑うことも多いと思いますが、毎回早くから来て準備をしてくださり、子どもたちにもしっかり向き合っているところ、基本的な大切なことがなされていて感心します。これから続けられる中で外国からの人々と会話をつなげ、少ない言葉でも交流ができる楽しさや、人と人のコミュニケーションの素晴らしさを体験し、そして、それぞれの「違い」を理解しようとする「こころ」が育まれることを期待しています。これからも一緒に国際交流活動を楽しみましょう。松本大学の皆さん、参加してくださいありがとうございます！

(波田町日本語教室・波田国際交流クラブ 川澄 利枝子さん)

バリアフリー支援準備室スタッフ募集

障がいのある学生が支障なく大学生活を送るためには、大学内のバリアフリーが整備されていることが必要です。

しかし、介助が必要なことを外部サービスに頼っているのが現状です。大学内で必要なサービスが受けられるようになることは、学内のバリアフリーに必要な不可欠なことだと思います。障がいのある学生を支援し、一緒に松本大学のバリアフリーを進めてみませんか？

(代表：観光ホスピタリティ学科3年 渡邊 庸介さん)

活動内容

障がいのある学生への支援、介助およびその体制づくり。

求められる学生像

福祉や介護に少しでも興味がある方を募集しています。随時募集していますので、お気軽に考房『ゆめ』までお問い合わせ下さい。

✿ ミャンマーサイクロンと岩手・宮城内陸地震募金活動 ✿

松商短期大学の学生有志で7月から始まった募金活動は、学友会と合同での呼びかけ募金や、信州・まつもと大歌舞伎のお練りでの街頭募金などへ輪を広げ、多くの方から温かいご支援をいただきました。



最初は何かをしたいというところから災害ボランティアは始まりました。「大きな事は出来ないけれど、募金なら出来そう。」という話になり、短大部有志4人でミャンマーの募金箱を学内に設置することになりました。

お金があまり集まらないので、先生達や学友会の皆さんと話し合いをして、みんなに呼びかけようということになりました。学友会のメンバーと一緒に朝とお昼休みに時間を決めて集まり、「募金よろしくお願いします！」と大きな声で呼びかけ、挨拶をしながら活動しました。最初は呼びかけに少し抵抗を感じましたが、慣れてくると面白く、お金もただ募金箱を置いていた時には考えられないくらい集まり、行動するとこんなにも違うんだなぁと驚きました。募金の呼びかけは少し抵抗があり、参加しにくいなぁと思うかもしれませんが、一度やってみるとみんなの優しさや思いやりの心を感じられて楽しいです。

(松商短期大学部経営情報学科1年 小林 あすかさん)

短大部の学生の呼びかけで、学友会3学部合同で行いました。昼休みを利用して2回ミーティングを行い、朝と昼休みに募金箱を持ち、呼びかけを行いたくさんの募金を集めることができました。しかし、この活動の一番の目的はお金を集めるというよりも世界や日本で災害にあった人がいることを多くの人に知ってもらうことです。目的の達成度は80%くらいでした。2週間程度での活動でしたので、もっと時間に余裕をもって話し合いをして、呼びかけをする人数も多くいけば100%に近付いたのではないかと思います。ですが、短期間でこれだけの活動ができたことは自分たちにとって自信になりました。これを機会にもっと3学部で活動ができればいいと思っています。募金をしてくださった皆さんには本当に感謝しています。ありがとうございました。

(人間健康学部学友会長 降幡 昌孝さん)

7月5日から行われた「信州・まつもと大歌舞伎」のオープニングセレモニーの「お練り」の場をお借りして、募金活動をさせていただきました。もともと、今回の歌舞伎を盛り上げようという信州大学の学生と共同制作した企画に携わっており、当日にイベントを実行することになっていました。また、ちょうどその頃考房『ゆめ』から義援金の話があり、この機会に募金活動も一緒にできないかと思ったのがきっかけでした。その日は松本大学の学生2人で活動をしました。とても暑い一日となりましたが、呼びかけの甲斐もあって大勢の方に募金活動にご協力していただき、とても良い結果を得ることが出来ました。集まったお金がわずかでも被災者の方の支援になれば幸いです。

(総合経営学部総合経営学科2年 矢澤 忠明さん)



7月末現在、学内で50,661円、学外で14,565円、合計65,226円の義援金が集まりました。たくさんの方々のご協力ありがとうございました！

※・ ※・° つぶやき ※・° ※

キッズスポーツでは、子どもたちと色々な種目・動作を楽しく やってみよう!! と思い、今年度からスポーツ全般を行うようになりました。

私は、運営のほうを担当しています。活動が始まる前に受付をしてもらい、そのときに子どもたちの名前を書いて、張ったりして子どもたちとふれあっています。活動中は、参加できない子どもに話しかけたり、危険がないように見ていたりしています。子どもたち、スタッフみんなが楽しそうに活動している姿を見ると、自然と笑顔になる楽しい時間をすごしています(* ^ ^ *)

(人間健康学部スポーツ健康学科2年 北澤 美和)

インフォメーションへの問い合わせ“ゆめ通信”へのご意見・質問など、すべて下記へお願い致します。



松本大学 地域づくり考房『ゆめ』

〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1

Tel: 0263-48-7213(直通) 0263-48-7200(代表)

Fax: 0263-48-7216

E-mail: community@matsu.ac.jp

URL: http://www.matsumoto-u.ac.jp/matsumoto_u/yume/